

# 鳥取沿岸海岸保全基本計画



令和2年3月  
鳥取県

# 鳥取沿岸海岸保全基本計画

(案)



赤字：第2回検討委員会時の記載内容  
青字：第2回検討委員会後の修正・追記内容

令和8年3月  
鳥取県

<b>I. 海岸の保全に関する基本的な事項</b>	<b>1</b>
1. 海岸の現況及び保全の方向に関する事項	1
1.1 自然的特性	1
1.2 社会的特性	11
1.3 ゾーニング	20
2. 海岸の防護に関する事項	24
2.1 防護の目標	24
2.1.1 防護水準	24
2.1.2 防護すべき地域	31
2.2 実施しようとする施策の内容	31
3. 海岸環境の整備及び保全に関する事項	38
4. 海岸における公衆の適正な利用に関する事項	41
5. 沿岸の長期的な在り方	44
<b>II 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項</b>	<b>46</b>
1. 海岸保全施設の新設又は改良に関する事項	46
1.1 新設又は改良しようとする区域	46
1.2 海岸保全施設の種類、規模及び配置	54
1.3 海岸保全施設による受益の地域及びその状況	54
2. 海岸保全施設の維持又は修繕に関する事項	55
2.1 海岸保全施設の存する区域	55
2.2 海岸保全施設の種類、規模及び配置	55
2.3 海岸保全施設の維持又は修繕の方法	55

<b>I. 海岸の保全に関する基本的な事項</b>	<b>1</b>
1. 海岸の現況及び保全の方向に関する事項	1
1.1 自然的特性	1
1.2 社会的特性	11
1.3 ゾーニング	21
2. 海岸の防護に関する事項	25
2.1 防護の目標	25
2.1.1 防護水準	26
2.1.2 防護すべき地域	40
2.2 実施しようとする施策の内容	40
3. 海岸環境の整備及び保全に関する事項	49
4. 海岸における公衆の適正な利用に関する事項	53
5. 沿岸の長期的な在り方	56
<b>II. 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項</b>	<b>58</b>
1. 海岸保全施設の新設又は改良に関する事項	58
1.1 ハード対策・ソフト対策を組み合わせた気候変動への適応策	58
1.2 海岸保全施設を新設又は改良しようとする区域	60
1.3 海岸保全施設の種類、規模及び配置	69
1.4 海岸保全施設による受益の地域及びその状況	69
2. 海岸保全施設の維持又は修繕に関する事項	70
2.1 海岸保全施設の存する区域	70
2.2 海岸保全施設の種類、規模及び配置	70
2.3 海岸保全施設の維持又は修繕の方法	70
3. 海岸保全基本計画推進時の留意事項	71

まえがき

本県の海岸は、ユネスコの世界ジオパークに認定された岩美海岸や鳥取砂丘から、出雲国風土記「国引き神話」に登場する弓ヶ浜まで東西約 130km におよび、多彩な地形、貴重な地質、多くの歴史を有している。また、海岸線の約 6 割は鳥取砂丘をはじめとした白砂青松の砂浜海岸であり、皆生海岸が国内初のトライアスロンの舞台になるなど、スポーツ、レクリエーション、観光の場として直接的な利用の面で、また間接的にも白兔海岸が神話因幡の白兔の舞台であるなど信仰や文化・伝統等精神的な面で、海岸は県民の貴重な財産である。

一方で様々な要因により、海岸の砂浜が減少する海岸侵食が大きな課題となっており、その対策の推進が求められている。

このような状況から、本県では平成 14 年 5 月に「鳥取沿岸海岸保全基本計画」を、平成 17 年 6 月に「鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドライン」を策定し、総合的な土砂管理に基づくサンドリサイクル<sup>※</sup>や、人々の暮らしを守る海岸保全施設の整備事業を計画的かつ積極的に推進してきた。

その後、平成 23 年 3 月 11 日に東北地方太平洋沖地震が発生し、その津波による東北地方を中心とした沿岸の被害は甚大なものとなった。その教訓を踏まえ、平成 26 年 6 月には大規模な津波や高潮等に備えるための防災・減災対策の強化や、海岸の適切な維持管理の確保を推進するため、海岸法が改正された。更に平成 27 年 2 月には、今後の海岸の望ましい姿の実現に向けた指針「海岸保全区域等に係る海岸の保全に関する基本的な方針」が国より示されたところである。

これらを背景に、本県においても防災・減災についての新たな考え方に沿って海岸保全を推進するため、調査・検討を進めてきた。この度、その検討結果を踏まえ、海岸保全基本計画の改定を行うものである。

なお、本計画策定後の気候の変動、地域の状況変化、社会経済状況の変化等に対応するため、必要に応じて計画の基本的事項や海岸保全施設の整備内容等を点検整理し、今後も適宜見直しを行うこととする。

※ 本計画では、砂の人為的な移動により砂浜を復元するサンドリサイクル、サンドバイパスについて、一般的な呼称として「サンドリサイクル」を使用する。（特別に区別して記載する場合を除く。）

気候変動を踏まえて、海岸保全基本計画の変更経緯について記載

まえがき

本県の海岸は、ユネスコの世界ジオパークに認定された岩美海岸や鳥取砂丘から、出雲国風土記「国引き神話」に登場する弓ヶ浜まで東西約 130km におよび、多彩な地形、貴重な地質、多くの歴史を有している。また、海岸線の約 5 割<sup>※1</sup>は鳥取砂丘をはじめとした白砂青松の砂浜海岸であり、皆生海岸<sup>※2</sup>が国内初のトライアスロンの舞台になるなど、スポーツ、レクリエーション、観光の場として直接的な利用の面で、また間接的にも白兔海岸が神話因幡の白兔の舞台であるなど信仰や文化・伝統等精神的な面で、海岸は県民の貴重な財産である。

一方で様々な要因によって、海岸の砂浜が減少する海岸侵食が大きな課題となっており、その対策の推進が求められている。

このような状況から、本県では平成 14 年 5 月に「鳥取沿岸海岸保全基本計画」を、平成 17 年 6 月に「鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドライン」を策定し、総合的な土砂管理に基づくサンドリサイクル<sup>※3</sup>や、人々の暮らしを守る海岸保全施設の整備を計画的かつ積極的に推進してきた。

その後、平成 23 年 3 月 11 日に東北地方太平洋沖地震が発生し、その津波による東北地方を中心とした沿岸の被害は甚大なものとなった。その教訓を踏まえ、平成 26 年 6 月には大規模な津波や高潮等に備えるための防災・減災対策の強化や、海岸の適切な維持管理の確保を推進するため、海岸法が改正された。更に平成 27 年 2 月には、今後の海岸の望ましい姿の実現に向けた指針「海岸保全区域等に係る海岸の保全に関する基本的な方針」が国から示されたところである。

また、令和 2 年 7 月に「気候変動を踏まえた海岸保全のあり方検討委員会」において、今後の海岸保全は、過去のデータに基づきつつ、気候変動による影響を明示的に考慮した海岸保全対策へ転換することが示され、令和 2 年 11 月に海岸保全基本方針が変更、令和 3 年 7 月に海岸保全施設の技術上の基準を定める省令が改正されたことを受けて、本県においても令和 5～6 年度にかけて「鳥取沿岸海岸保全基本計画の変更に関する技術検討会」を設置し、2100 年時点の平均海面水位、高潮・高波の将来予測値についての検討を行ってきた。

この度、その検討結果を踏まえ、海岸保全基本計画の改定を行うものである。

なお、海岸保全基本計画策定後の気候の変動、地域の状況変化、社会経済状況の変化等に対応するため、必要に応じて計画の基本的事項や海岸保全施設の整備内容等を点検整理し、今後も適宜見直しを行うこととする。

※1 鳥取県内の砂浜海岸の割合、令和 6 年度版海岸統計資料 参照

※2 皆生海岸は、淀江海岸、日吉津海岸、米子海岸及び境港海岸の総称を指す。

※3 海岸保全基本計画では、砂の人為的な移動によって砂浜を復元するサンドリサイクル、サンドバイパスについて、一般的な呼称として「サンドリサイクル」を使用する。（特別に区別して記載する場合を除く。）

I. 海岸の保全に関する基本的な事項

1. 海岸の現況及び保全の方向に関する事項

1.1 自然的特性

(1) 海岸の現状

- 海岸線の約6割は鳥取砂丘に代表される砂浜海岸である。
- 砂浜海岸以外にも、崖海岸、礫海岸も数多く存在し、自然豊かで多様な海岸が形成されている。

鳥取沿岸は、海岸の約6割が鳥取砂丘、白兎海岸、弓ヶ浜等に代表される砂浜海岸である。これらの砂浜海岸は、白砂青松の海岸となっており海水浴や散策など広く県民に利用され、愛されている。特に鳥取砂丘はその広さ、雄大さから、日本を代表する砂浜の一つである。また、崖海岸地区はリアス式海岸となっており、日本海の荒波と風雪によって断崖や岩礁が形成されるなど、表情豊かな海岸が形成されている。

(2) 海象

- 春季から夏季にかけては比較的穏やかな波が多いが、冬季は高波浪が継続することも多く、厳しい自然条件となっている。

年間を通して、西北西～北北東方向からの波浪が多い。春季から夏季は、北北東からの波浪を中心に、波高1m以下の穏やかな波が多いが、冬季は北北西～北方向から波高3mを越える波が来襲するなど、冬季風浪が卓越する傾向がある。

【更新】砂浜海岸の割合を令和6年度版海岸統計資料をもとに更新

I. 海岸の保全に関する基本的な事項

1. 海岸の現況及び保全の方向に関する事項

1.1 自然的特性

(1) 海岸の現状

- 海岸線の約5割は鳥取砂丘に代表される砂浜海岸である。
- 砂浜海岸以外にも、崖海岸、礫海岸も数多く存在し、自然豊かで多様な海岸が形成されている。

鳥取沿岸は、海岸の約5割が鳥取砂丘、白兎海岸、弓ヶ浜等に代表される砂浜海岸である。これらの砂浜海岸は、白砂青松の海岸となっており海水浴や散策など広く県民に利用され、愛されている。特に鳥取砂丘はその広さ、雄大さから、日本を代表する砂浜の一つである。また、崖海岸地区はリアス海岸となっており、日本海の荒波と風雪によって断崖や岩礁が形成されるなど、表情豊かな海岸が形成されている。

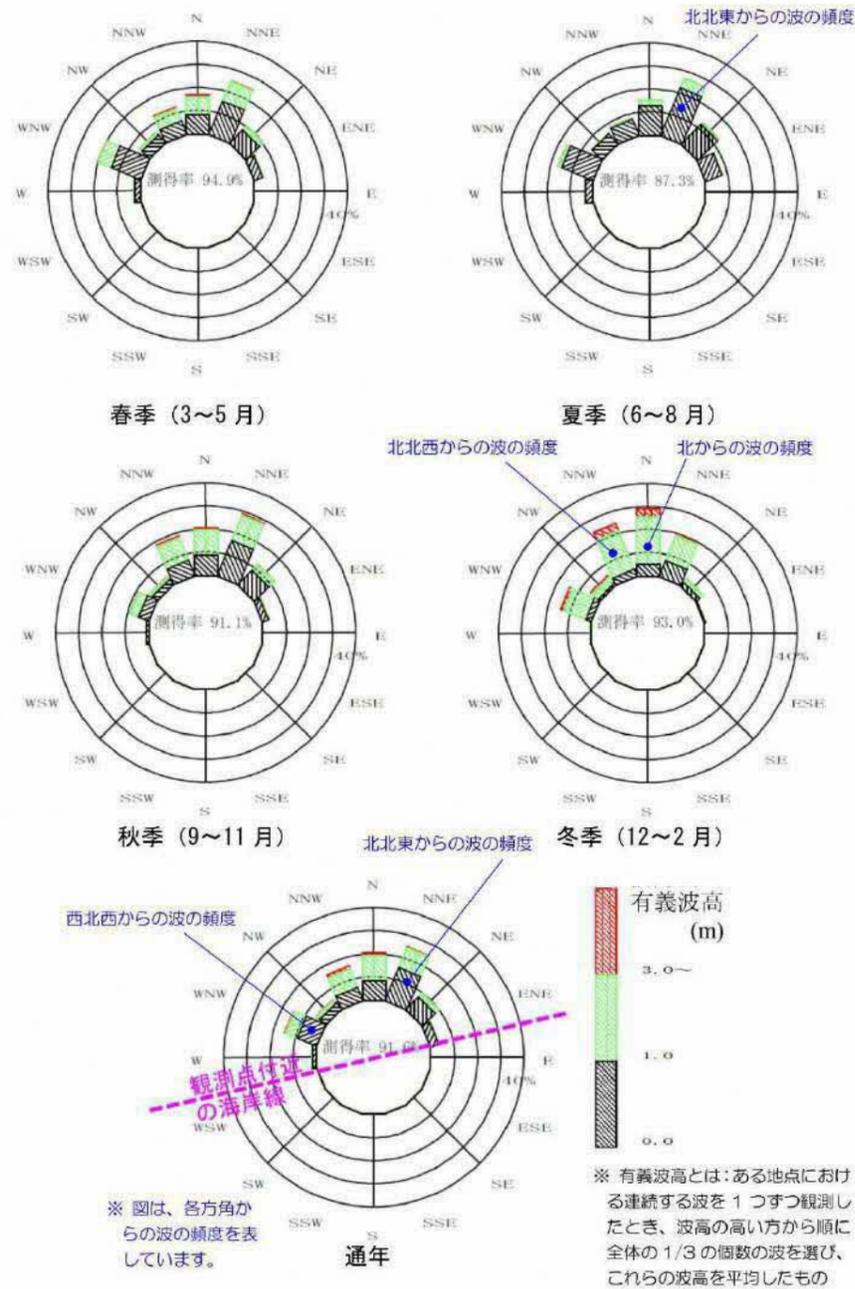
出典 鳥取県内の砂浜海岸の割合,令和6年度版海岸統計資料

(2) 海象

- 春季から夏季にかけては比較的穏やかな波が多いが、冬季は高波浪が継続することも多く、厳しい自然条件となっている。

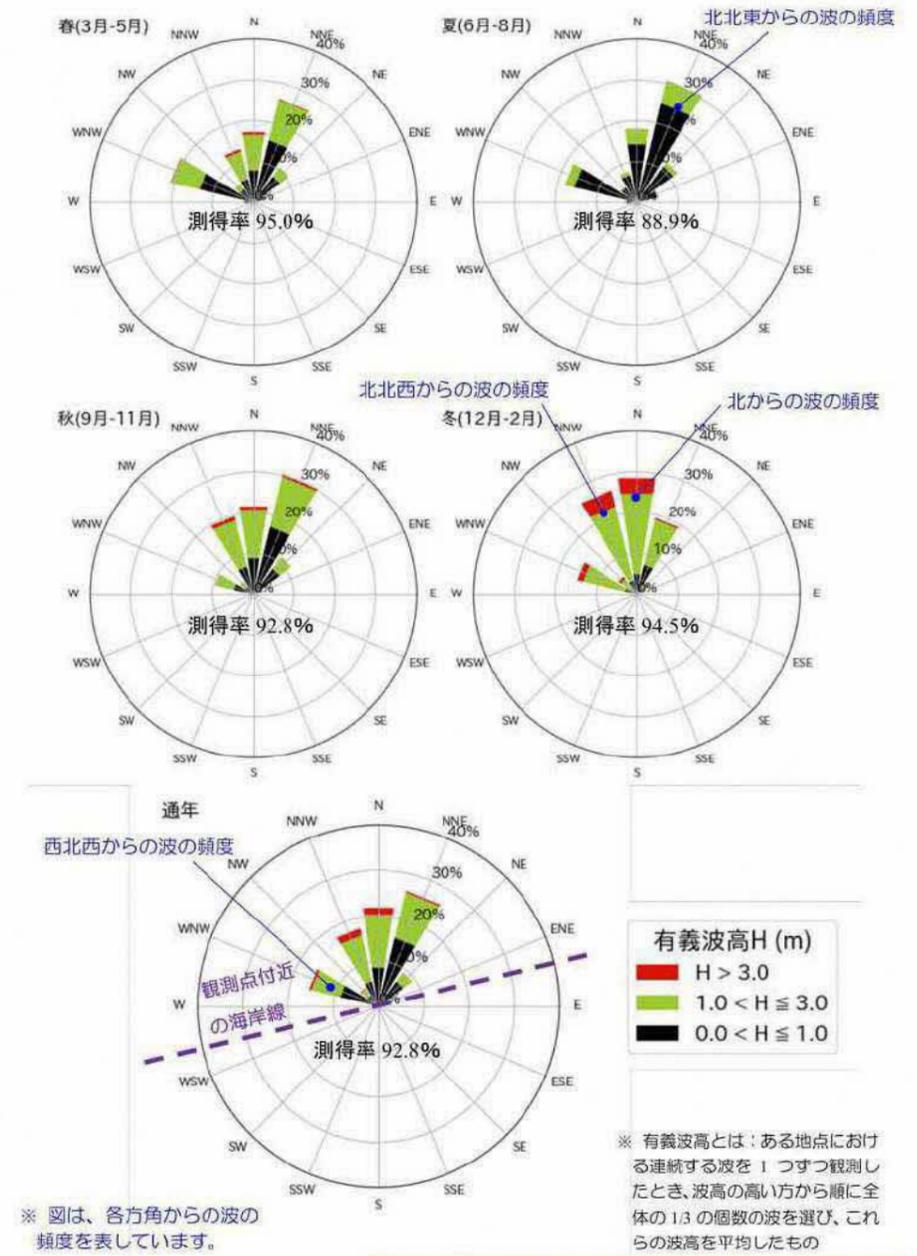
年間を通して、西北西～北北東方向からの波浪が多い。春季から夏季は、北北東からの波浪を中心に、波高1m以下の穏やかな波が多いが、冬季は北北西～北方向から波高3mを越える波が来襲するなど、冬季風浪が卓越する傾向がある。

－第1編 第1章 海岸の現況及び保全の方向に関する事項－



－第1編 第1章 海岸の現況及び保全の方向に関する事項－

【時点更新】統計期間を2003.3～2023.12に更新



(3) 地形・地質

- 県南側の中国山地は急峻であり、日本海に向かって河川は急流である。
- 河川からの土砂供給により堆積平野が形成され、砂浜海岸が維持されてきた。
- 県東部はユネスコ世界ジオパークに認定されるなど、地形地質をはじめとする豊かな自然遺産が評価されている。

南側には大山や氷ノ山をはじめとする急峻な中国山地が連続しており、河川はいずれも日本海に向かって急流となっている。千代川・天神川・日野川などに運ばれた土砂により下流部に鳥取平野、倉吉平野、米子平野等の堆積平野を形成している。

地質としては、山岳部に花崗岩類や流紋岩類、平野部は大山火山灰層等で構成されている。また、平野部の河口周辺では、山地の花崗岩等から供給された土砂により砂浜が形成・維持されてきた。

また、県東部の海岸部周辺は、日本海形成に関わる様々な岩石・地層や、変化に富んだ海岸地形等が評価され、「地球活動の遺産」として世界ジオパークへの加盟が認定されている。



中国山地(大山)



山陰海岸ジオパーク(浦富海岸)

(4) 漂砂と砂浜

- 河川から供給された土砂等が、沿岸漂砂により移動しながら砂浜を形成している。

一般的に鳥取沿岸の漂砂は、その波浪の特性から概ね冬に西から東へ、春から秋にかけて東から西へと移動する傾向にある。また、美保湾沿岸については島根半島の影響もあって西向きに移動している。

ただし、海岸に構造物がある箇所は、沿岸漂砂のバランスが崩れて海岸侵食の要因となりえるので、モニタリングを実施し、流砂系の土砂動態の把握と適正管理が必要である。鳥取県においては、総合的な土砂管理と位置づけ継続的に実施している。

【追記】山陰海岸ジオパークを追記（パブリックコメント結果）

(3) 地形・地質

- 県南側の中国山地は急峻であり、日本海に向かって河川は急流である。
- 河川からの土砂供給によって堆積平野が形成され、砂浜海岸が維持されてきた。
- 県東部はユネスコ世界ジオパークに認定されるなど、地形地質をはじめとする豊かな自然遺産が評価されている。

南側には大山や氷ノ山をはじめとする急峻な中国山地が連続しており、河川はいずれも日本海に向かって急流となっている。千代川・天神川・日野川などに運ばれた土砂によって下流部に鳥取平野、倉吉平野、米子平野等の堆積平野を形成している。

地質としては、山岳部に花崗岩類や流紋岩類、平野部は大山火山灰層等で構成されている。また、平野部の河口周辺では、山地の花崗岩等から供給された土砂によって砂浜が形成・維持されてきた。

また、県東部の海岸部周辺は、山陰海岸ジオパークとなっており、日本海形成に関わる様々な岩石・地層や、変化に富んだ海岸地形等が評価され、「地球活動の遺産」として世界ジオパークへの加盟が認定されている。



中国山地(大山)



山陰海岸ジオパーク(浦富海岸)

(4) 漂砂と砂浜

- 河川から供給された土砂等が、沿岸漂砂によって移動しながら砂浜を形成している。

一般的に鳥取沿岸の漂砂は、その波浪の特性から概ね冬に西から東へ、春から秋にかけて東から西へと移動する傾向にある。また、美保湾沿岸については島根半島の影響もあって西向きに移動している。

ただし、海岸に構造物がある箇所は、沿岸漂砂のバランスが崩れて海岸侵食の要因となりえるので、海浜地形のモニタリングを実施し、流砂系の土砂動態の把握と適正管理が必要である。鳥取県においては、総合的な土砂管理と位置づけ継続的に実施している。

(5) 水質

■ 沿岸の水質はほとんど環境基準値を満足しており、良好である。

鳥取沿岸の水質環境基準（環境省）は、境港港湾区域のみが海域類型 B で、その他の水域は全て類型 A となっている。沿岸海域には 16 地点の「環境基準点」が設置されており、「公共用水域及び地下水の水質測定結果（鳥取県）」より過去 10 年間の COD 値（75%値）の値を見ると、沿岸の西部の一部で基準値を超えることがあるものの、その他の地点では基準値を満足しており、水質は良好である。

沿岸にある海水浴場（11 箇所）では、環境省の海水浴場判定基準の水質 AA～A（水質が特に良好～水質が良好）となっており、レクリエーションにも適した水質である。

鳥取県海水浴場の水質判定結果

海水浴場名	東浜 (岩美町)	牧谷 (岩美町)	浦富 (岩美町)	鳥取砂丘 (鳥取市)	賀露みなど (鳥取市)	白兔 (鳥取市)
油膜	無	無	無	無	無	無
COD(mg/L)	1.4	1.3	1.4	1.5	1.5	1.5
透明度	全透	全透	全透	全透	全透	全透
判定結果	AA	AA	AA	AA	AA	AA

海水浴場名	小沢見 (鳥取市)	ハワイ (湯梨浜町)	宇野 (湯梨浜町)	八橋 (琴浦町)	皆生温泉 (米子市)
油膜	無	無	無	無	無
COD(mg/L)	1.5	1.6	1.4	1.7	1.6
透明度	全透	全透	全透	全透	全透
判定結果	AA	A	AA	AA	AA

出典 環境省 水・大気環境局(令和元年7月)  
令和元年度 水浴場（開設前）水質調査結果

【時点更新】令和7年度の水質調査結果に更新

(5) 水質

■ 沿岸の水質はほとんど環境基準値を満足しており、良好である。

鳥取沿岸の水質環境基準（環境省）は、境港港湾区域のみが海域類型 B で、その他の水域は全て類型 A となっている。沿岸域には 16 地点の「環境基準点」が設置されており、「令和5年度公共用水域及び地下水の水質測定結果（鳥取県）」から過去 10 年間の COD 値（75%値）の値を見ると、西部沿岸の一部で基準値を超えることがあるものの、その他の地点では基準値を満足しており、水質は良好である。

沿岸にある海水浴場（9 箇所）では、環境省の海水浴場判定基準の水質 AA～A（水質が特に良好～水質が良好）となっており、レクリエーションにも適した水質である。

鳥取県海水浴場の水質判定結果

海水浴場名	東浜 (岩美町)	牧谷 (岩美町)	浦富 (岩美町)	鳥取砂丘 (鳥取市)	賀露みなど (鳥取市)
油膜	無	無	無	無	無
COD(mg/L)	1.3	0.9	1.0	1.4	1.1
透明度	全透	全透	全透	全透	全透
判定結果	AA	AA	AA	AA	AA

海水浴場名	白兔 (鳥取市)	小沢見 (鳥取市)	ハワイ (湯梨浜町)	皆生温泉 (米子市)
油膜	無	無	無	無
COD(mg/L)	1.1	1.2	1.4	1.5
透明度	全透	全透	全透	全透
判定結果	AA	A	AA	AA

出典 令和7年度海水浴場水質調査結果(開設前)について

(6) 流入河川

- 比較的急勾配かつ短い延長で、45の河川が日本海に流入している。
- 主要な河川は、一級河川の千代川、天神川、日野川である。

鳥取沿岸には45の河川が流入している。その多くは南の中国山地から北の日本海に向け、比較的急勾配かつ短い延長で流下している。そのうちの主要なものは、一級河川の千代川、天神川、日野川の3河川であり、海岸線に広範囲の漂砂範囲を持っている。二級河川は、蒲生川、加勢蛇川、阿弥陀川、佐陀川等の42河川である。



鳥取県内の河川

(6) 流入河川

- 比較的急勾配かつ短い延長で、45の河川が日本海に流入している。
- 主要な河川は、一級河川の千代川、天神川、日野川である。

鳥取沿岸には45の河川が流入している。その多くは南の中国山地から北の日本海に向け、比較的急勾配かつ短い延長で流下している。そのうちの主要なものは、一級河川の千代川、天神川、日野川の3河川であり、海岸線に広範囲の漂砂範囲を持っている。二級河川は、蒲生川、加勢蛇川、阿弥陀川、佐陀川等の42河川である。



鳥取県内の河川

(7) 生物相

- 砂浜海岸や岩礁・海蝕崖等の変化に富んだ生息環境に応じた、多様な生物相が成立している。砂浜海岸にはスナガニ等のカニ類や特有の昆虫類が生息する。
- 主要な河川の河口域は水鳥の生息地、渡り鳥の中継地・集団渡来地となっており、絶滅危惧種であるコアジサシなど様々な野鳥が飛来する。
- 砂丘や断崖には砂丘植物などの貴重な植物が自生する。弓ヶ浜など砂浜の背後にはクロマツ林が分布し、白砂青松を創出している。
- 岩礁域ではホンダワラ類などの藻場が分布し、砂浜域ではアカウミガメの産卵・孵化もみられる。

(a) 植生

県内に広く分布する砂浜海岸の背後には、飛砂防備、潮害防備保安林としてクロマツ林が帯状に分布して白砂青松を創出し、沿岸部における土地の高度利用、住民の生活環境を保護してきた。また、その他の崖海岸や砂浜海岸の背後にも魚つき保安林として指定された海岸樹林が分布している。

沿岸の砂丘や断崖には特色のある地形・生育環境に応じて、貴重な植生が自生している。貴重な植生としては、浦富海岸の海浜・海食崖の植物群落(ヒゴタイなど)、日本最大の鳥取砂丘の植生(ハマボウフウなど)、気高町船磯の海岸急斜面のスタジイ林、泊海岸や橋津海岸の旧海食崖に残る貴重植生(トウテイラン、オオエゾデンダ)の群生地、赤碕町智光寺マテバシイ自生北限、赤碕海岸や中山海岸のハマヒサカキ群落、白兔海岸や中山海岸のハマナス自生南限地、弓ヶ浜のクロマツの海岸林と砂丘植生などがあげられる。



ハマボウフウ

写真提供：鳥取県緑豊かな自然課

(b) 陸生生物

○カニ類

鳥取県に広く分布する砂浜海岸のほぼ全域に、自然海岸の保全の指標となり得るスナガニが分布している。その他磯場では、イワガニなど多様なカニ類が生息している。希少な種としては、河口のヨシ原、石垣などに生息するベンケイガニ(岩美町)があげられる。



スナガニ

写真提供：山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館

(7) 生物相

- 砂浜海岸や岩礁・海蝕崖等の変化に富んだ生息環境に応じた、多様な生物相が成立している。砂浜海岸にはスナガニ等のカニ類や特有の昆虫類が生息する。
- 主要な河川の河口域は水鳥の生息地、渡り鳥の中継地・集団渡来地となっており、絶滅危惧種であるコアジサシなど様々な野鳥が飛来する。
- 砂丘や断崖には砂丘植物などの貴重な植物が自生する。弓ヶ浜など砂浜の背後にはクロマツ林が分布し、白砂青松を創出している。
- 岩礁域ではホンダワラ類などの藻場が分布し、砂浜域ではアカウミガメの産卵・孵化もみられる。

(a) 植生

県内に広く分布する砂浜海岸の背後には、飛砂防備、潮害防備保安林としてクロマツ林が帯状に分布して白砂青松を創出し、沿岸域における土地の高度利用、住民の生活環境を保護してきた。また、その他の崖海岸や砂浜海岸の背後にも魚つき保安林として指定された海岸樹林が分布している。

沿岸の砂丘や断崖には特色のある地形・生育環境に応じて、貴重な植生が自生している。貴重な植生としては、浦富海岸の海浜・海食崖の植物群落(ヒゴタイなど)、日本最大の鳥取砂丘の植生(ハマボウフウなど)、気高町船磯の海岸急斜面のスタジイ林、泊海岸や橋津海岸の旧海食崖に残る貴重植生(トウテイラン、オオエゾデンダ)の群生地、赤碕町智光寺マテバシイ自生北限、赤碕海岸や中山海岸のハマヒサカキ群落、白兔海岸や中山海岸のハマナス自生南限地、弓ヶ浜のクロマツの海岸林と砂丘植生などがあげられる。



ハマボウフウ

写真提供：鳥取県緑豊かな自然課

(b) 陸生生物

○カニ類

鳥取県に広く分布する砂浜海岸のほぼ全域に、自然海岸の保全の指標となり得るスナガニが分布している。その他磯場では、イワガニなど多様なカニ類が生息している。希少な種としては、河口のヨシ原、石垣などに生息するベンケイガニ(岩美町)があげられる。



スナガニ

写真提供：山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館

○昆虫類・クモガタ類

鳥取砂丘を中心に多様な昆虫類・クモガタ類が生息している。希少な昆虫類としては、キマダラルリツバメ（シジミチョウ）、海浜性アリジゴクハマベウスバカゲロウ、エリザハンミョウ、カワラヨモギに寄生するスナヒメハダニなどがあげられる。クモガタ類としては海浜植物がある砂浜に分布するイソコモリグモなどである。千代川の河口域などでは、淡水の砂浜を必要とするハラビロハンミョウや波打ち際の砂浜のみに生息するコロナギサダニといった特有の昆虫類が確認される。東浜から琴浦町までの海蝕崖を伴う砂浜海岸と千代川や蒲生川の感潮域では、ヨシ原などに生息するヒトハリザトウムシが確認されている。

○鳥類

海岸・河口域には四季を通じて多くの水鳥類が飛来する。千代川河口や鳥取砂丘などは、トウネンやハマシギなどのシギ類、メダイチドリやダイゼンなどのチドリ類、シノリガモなどのカモ類が飛来し、渡り鳥の中継地・集団渡来地となっている。日野川河口から弓ヶ浜にかけては、ミサゴなどの猛禽類、マガン、トモエガモ、アカエリヒレアシシギなどが確認されている。

絶滅危惧種であるコアジサシも飛来し、千代川河口、天神川河口、日野川下流域では繁殖が確認されたことがある。



ミサゴ



ハマシギ

写真提供：米子水鳥公園

**【更新】ハラビロハンミョウの絶滅による文章修正**

○昆虫類・クモガタ類

鳥取砂丘を中心に多様な昆虫類・クモガタ類が生息している。希少な昆虫類としては、キマダラルリツバメ（シジミチョウ）、海浜性アリジゴクハマベウスバカゲロウ、エリザハンミョウ、カワラヨモギに寄生するスナヒメハダニなどがあげられる。クモガタ類としては海浜植物がある砂浜に分布するイソコモリグモなどである。千代川の河口域などでは、波打ち際の砂浜のみに生息するコロナギサダニといった特有の昆虫類が確認される。東浜から琴浦町までの海蝕崖を伴う砂浜海岸と千代川や蒲生川の感潮域では、ヨシ原などに生息するヒトハリザトウムシが確認されている。

○鳥類

海岸・河口域には四季を通じて多くの水鳥類が飛来する。千代川河口や鳥取砂丘などは、トウネンやハマシギなどのシギ類、メダイチドリやダイゼンなどのチドリ類、シノリガモなどのカモ類が飛来し、渡り鳥の中継地・集団渡来地となっている。日野川河口から弓ヶ浜にかけては、ミサゴなどの猛禽類、マガン、トモエガモ、アカエリヒレアシシギなどが確認されている。

絶滅危惧種であるコアジサシも飛来し、千代川河口、天神川河口、日野川下流域では繁殖が確認されたことがある。



ミサゴ



ハマシギ

写真提供：米子水鳥公園

(c) 海生生物

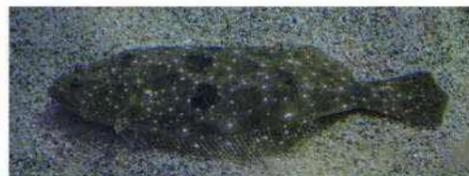
○魚類など

砂浜海岸の浅場には、シロギスが周年確認される。その他、ヒラメ、ネズミゴチ、ホウボウなどの魚類が生息するほか、スズキ、マダイなどの稚魚も多い。コウイカは春先から初夏にかけて浅場の藻場等で産卵している。岩美町・鳥取市・琴浦町・米子市などの砂浜では、絶滅危惧種であるアカウミガメの漂着が確認されている。希ではあるが、岩美町、北栄町などではアカウミガメの産卵・孵化も確認されている。



アカウミガメ

写真提供：鳥取県立博物館



ヒラメ

写真提供：山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館

参考文献

【カニ類】

日本海南西部鳥取県沿岸およびその周辺に生息するカニ類(2011年)

干潟の絶滅危惧動物図鑑(2012) 武田正倫 他

鳥取県の砂浜海岸におけるスナガニの分布 (2009年) 日本ベントス学会 和田年史

【昆虫類・クモガタ類】

鳥取県のすぐれた自然・動物編(1993年) 鳥取県

レッドデータブックとっとり改訂版 (2012年) 鳥取県

【鳥類】

NPO 法人日本野鳥の会鳥取支部ウェブサイト

レッドデータブックとっとり改訂版 (2012年) 鳥取県

【植生】

鳥取県のすぐれた自然・植物編(1993年) 鳥取県

レッドデータブックとっとり改訂版 (2012年) 鳥取県

【海生生物】

山陰海岸の身近な海の生きものガイドブック(2015年) 鳥取県 鳥取県立博物館付属山陰海岸学習館

レッドデータブックとっとり改訂版(2012年) 鳥取県

【更新】出典をレッドデータブックとっとり改訂版(2022年)に更新

(c) 海生生物

○魚類など

砂浜海岸の浅場には、シロギスが周年確認される。その他、ヒラメ、ネズミゴチ、ホウボウなどの魚類が生息するほか、スズキ、マダイなどの稚魚も多い。コウイカは春先から初夏にかけて浅場の藻場等で産卵している。岩美町・鳥取市・琴浦町・米子市などの砂浜では、絶滅危惧種であるアカウミガメの漂着が確認されている。希ではあるが、岩美町、北栄町などではアカウミガメの産卵・孵化も確認されている。



アカウミガメ

写真提供：鳥取県立博物館



ヒラメ

写真提供：山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館

参考文献

【カニ類】

日本海南西部鳥取県沿岸およびその周辺に生息するカニ類(2011年)

干潟の絶滅危惧動物図鑑(2012) 武田正倫 他

鳥取県の砂浜海岸におけるスナガニの分布 (2009年) 日本ベントス学会 和田年史

【昆虫類・クモガタ類】

鳥取県のすぐれた自然・動物編(1993年) 鳥取県

レッドデータブックとっとり改訂版 (2022年) 鳥取県

【鳥類】

NPO 法人日本野鳥の会鳥取支部ウェブサイト

レッドデータブックとっとり改訂版 (2022年) 鳥取県

【植生】

鳥取県のすぐれた自然・植物編(1993年) 鳥取県

レッドデータブックとっとり改訂版 (2022年) 鳥取県

【海生生物】

山陰海岸の身近な海の生きものガイドブック(2015年) 鳥取県 鳥取県立博物館付属山陰海岸学習館

レッドデータブックとっとり改訂版(2022年) 鳥取県

(8) 海岸景観

- 白砂青松と壮大な岩崖が対照的な景観を形成している。

鳥取沿岸は全体として、広大な鳥取砂丘や弓ヶ浜に代表される白砂青松の砂浜海岸と岩美町浦富海岸などに見られる壮大な海食崖海岸が、対照的な変化に富んだ景観を形成している。

- 各地域の特徴をみると岩美町では、名勝及び天然記念物〈浦富海岸〉の岩場とポケットビーチから形成される崖海岸と砂浜海岸が見事に調和した美しい海浜景観を生み出している。
- 鳥取市では、鳥取砂丘から白兎海岸、長尾鼻にかけては風光明媚な砂浜景観が続き、随所で鳴き砂現象などがみられる。特に、広大な鳥取砂丘は全国にない眺望である。
- 鳥取市気高町～湯梨浜町では、長尾鼻から羽合漁港海岸までは変化に富んだ海岸景観が続いており、橋津の海食洞に代表される崖海岸とポケットビーチが交互に存在している。
- 北栄町～琴浦町では、北条・大栄両海岸付近では砂丘を中心とする砂浜と松林の連続する景観が特徴的である。
- 琴浦町～大山町では、磯浜とポケットビーチが交互に存在する変化に富んだ海岸景観が続いている。
- 米子市～境港市では、沿岸部西端の美保湾沿岸にかけては、弓ヶ浜に代表される白砂青松の砂浜が弓状に続き、大山の雄大な姿とその裾野に広がる広大で緑豊かな領域が形成されており、砂浜が景観の重要な要素となっている。



鳥取市 鳥取砂丘



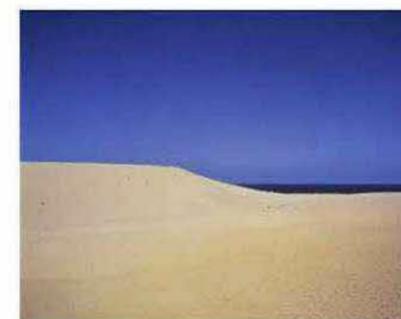
米子市 皆生海岸

(8) 海岸景観

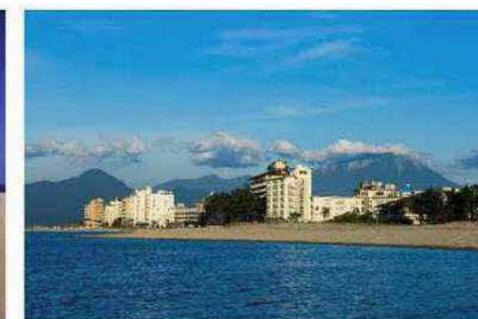
- 白砂青松と壮大な岩崖が対照的な景観を形成している。

鳥取沿岸は全体として、広大な鳥取砂丘や弓ヶ浜に代表される白砂青松の砂浜海岸と岩美町浦富海岸などに見られる壮大な海食崖海岸が、対照的な変化に富んだ景観を形成している。

- 各地域の特徴をみると岩美町では、名勝及び天然記念物〈浦富海岸〉の岩場とポケットビーチから形成される崖海岸と砂浜海岸が見事に調和した美しい海浜景観を生み出している。
- 鳥取市では、鳥取砂丘から白兎海岸、長尾鼻にかけては風光明媚な砂浜景観が続き、随所で鳴き砂現象などがみられる。特に、広大な鳥取砂丘は全国にない眺望である。
- 鳥取市気高町～湯梨浜町では、長尾鼻から羽合漁港海岸までは変化に富んだ海岸景観が続いており、橋津の海食洞に代表される崖海岸とポケットビーチが交互に存在している。
- 北栄町～琴浦町では、北条・大栄両海岸付近では砂丘を中心とする砂浜と松林の連続する景観が特徴的である。
- 琴浦町～大山町では、磯浜とポケットビーチが交互に存在する変化に富んだ海岸景観が続いている。
- 米子市～境港市では、沿岸部西端の美保湾沿岸にかけては、弓ヶ浜に代表される白砂青松の砂浜が弓状に続き、大山の雄大な姿とその裾野に広がる広大で緑豊かな領域が形成されており、砂浜が景観の重要な要素となっている。



鳥取市 鳥取砂丘



米子市 米子海岸



●海岸の優れた地形・地質

項目	番号
① 東浜海岸	1
② 羽尾岬と竜神洞	2
③ 浦富海岸	3
④ 鳥取砂丘	4
⑤ 白兎海岸	5
⑥ 長尾鼻	6
⑦ 鳥取県下に分布する鳴り砂	7
⑧ 泊砂丘(原の砂丘)	8
⑨ 標津の離水海食洞・旧海食崖	9
⑩ 北条砂丘	10
⑪ 名和町の磯浜	11
⑫ 弓ヶ浜砂州	12

●貴重な植生

番号	名称
A	合せヶ谷スリバチのクロマツ林
B	白兎神社社叢
C	相屋神社社叢
D	鹿津～御崎海岸のハマヒサカキ群落
E	松河原のハマナス群落
F	和田御崎神社社叢
G	甘露神社社叢
H	小羽尾神社のヒメズリハ林
I	熊野神社社叢
J	浦富海岸の海浜植生
K	鳥取砂丘の植生
L	伏野神社社叢
M	船塚のスタイジイ林
N	橋津海岸のトウテイラン-オオソデダ群落
O	逢坂八幡神社社叢
P	日吉神社社叢
Q	弓ヶ浜海岸の砂丘植生

■鳥取沿岸に生息する主なRDB掲載種

番号	名称	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類
a	オジロワシ		
b	オオワシ		
c	ヘラサギ	○	
d	クロツラヘラサギ		
e	コアジサシ		
f	ハヤブサ		
g	サンカノゴイ		
h	ヒシクイ		
i	トモエガモ		
j	シノリガモ		
k	オオハクチョウ		
l	ズグロカモメ		
m	アカウミガメ	○	
n	ハラビロハンミョウ	○	
o	コガタノゲンゴロウ		
p	キマダラルリツバメ		○
q	ハマベウスバカゲロウ		
r	イソコモリグモ		○
s	カロナギサダニ		○

鳥取の自然

出典 鳥取県の優れた自然 地形・地質編 (1993.12) 鳥取県

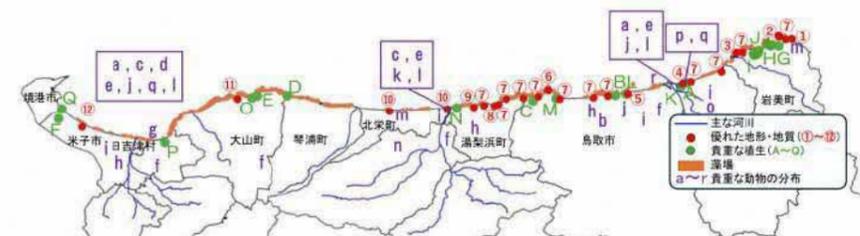
鳥取県の優れた自然 植物編 (1993.12) 鳥取県

RDB とっとり改訂版 (2012) 鳥取県

～自然的特性のまとめ～

- 日本有数の砂浜海岸や砂丘を有するとともに、崖海岸、磯浜など変化に富んだ海岸が多数存在している。
- 沿岸域の生物相は、特色のある地形などに応じて、特有の陸生・海生生物がみられ多様である。
- 白砂青松やと壮大な岩崖が対照的な景観を形成している。

【更新】n:ハラビロハンミョウ絶滅による番号変更



●海岸の優れた地形・地質

項目	番号
① 東浜海岸	1
② 羽尾岬と竜神洞	2
③ 浦富海岸	3
④ 鳥取砂丘	4
⑤ 白兎海岸	5
⑥ 長尾鼻	6
⑦ 鳥取県下に分布する鳴り砂	7
⑧ 泊砂丘(原の砂丘)	8
⑨ 標津の離水海食洞・旧海食崖	9
⑩ 北条砂丘	10
⑪ 名和町の磯浜	11
⑫ 弓ヶ浜砂州	12

●貴重な植生

番号	名称
A	合せヶ谷スリバチのクロマツ林
B	白兎神社社叢
C	相屋神社社叢
D	鹿津～御崎海岸のハマヒサカキ群落
E	松河原のハマナス群落
F	和田御崎神社社叢
G	甘露神社社叢
H	小羽尾神社のヒメズリハ林
I	熊野神社社叢
J	浦富海岸の海浜植生
K	鳥取砂丘の植生
L	伏野神社社叢
M	船塚のスタイジイ林
N	橋津海岸のトウテイラン-オオソデダ群落
O	逢坂八幡神社社叢
P	日吉神社社叢
Q	弓ヶ浜海岸の砂丘植生

■鳥取沿岸に生息する主なRDB掲載種

番号	名称	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類
a	オジロワシ		
b	オオワシ		
c	ヘラサギ	○	
d	クロツラヘラサギ		
e	コアジサシ		
f	ハヤブサ		
g	サンカノゴイ		
h	ヒシクイ		
i	トモエガモ		
j	シノリガモ		
k	オオハクチョウ		
l	ズグロカモメ		
m	アカウミガメ	○	
n	コガタノゲンゴロウ		
o	キマダラルリツバメ		○
p	ハマベウスバカゲロウ		
q	イソコモリグモ		○
r	カロナギサダニ		○

鳥取の自然

出典 鳥取県の優れた自然 地形・地質編 (1993.12) 鳥取県

出典 鳥取県の優れた自然 植物編 (1993.12) 鳥取県

出典: レッドデータベースとっとり改訂版 (2022) 鳥取県

～自然的特性のまとめ～

- 日本有数の砂浜海岸や砂丘を有するとともに、崖海岸、磯浜など変化に富んだ海岸が多数存在している。
- 沿岸域の生物相は、特色のある地形などに応じて、特有の陸生・海生生物がみられ多様である。
- 白砂青松と壮大な岩崖が対照的な景観を形成している。